労協連だより

古村　伸宏

今年も残すところ２週間。時間の流れが加速するのは、歳のせいか時代の流れか。年内最後の大行事・全国代表者会議と社会連帯機構総会が先週末開かれた。総会・総代会から約半年の中で、全国の事業･運動、その中での組合員の成長は予想を超えて勢いを増している。地域の最も困難な課題へ、地域丸ごとへ、が勢いや核心の共通項だった。生保関連事業は全国30か所に迫り、障害を持つ子供たちの放課後等デイサービス事業は、瞬く間に40か所で立ち上がった。また、被災地や千葉北総、兵庫但馬ではFECから地域丸ごとのネットワーク化が始まっている。こうした事業・運動の新しい段階が拓かれると同時に、組織と経営も根本的な変革期に入った。「社会連帯経営」の現実化であり、「社会連帯協同組合」としての組織改革である。年明けから、全国代表者会議の成果を余すところなく､全国･全課題で活かしていかなければならない。その覚悟はきっと、地域・市民・自治体を動かし、組合員が動く運動組織へと、自らを鍛えてくれるだろう。

そして今週末は衆議院総選挙である。年が明ければ、新しい政権による船出は必至であり、この航海は相当の難航が予想される。時代と社会を見据える目と、それを語る勇気が求められる。この国と社会の在り様を誰が決めるのか。みんなで決めてみんなで生きていける社会を待望したい、未来を信じて。

新年はまた、法制化運動を再起動することになる。新しい議員連盟の再構築と、市民会議の再出発を進めるにあたり、いま一度、法制化の意味と必要性を内外に発信しなければならない。特に震災から復興の過程で､全国が直面する多くの困難の中から、協同労働とその協同組合は、一層必要性・必然性を増している。何よりも地域・市民が、そのことを感じる場面が圧倒的に広がっている。これを加速させる上でも、映画「ワーカーズ」を全国に広げたい。そして法制化を地域で語り、話題とする組合員の姿を躍動させたい。

５回目の年男の一年が終わり、いよいよ40代最後の一年がやってくる。40代は確かな充実期だったと実感できるが、その価値は走り抜けるまで分からない。無知で無謀な20代、未知へ挑む30代を経て、問い問われ生み出した40代だった。しかし一方で、悩み憂う日々であり、最後にその波が押し寄せる。自分はいったい誰のため、何のための存在なのか？そのことを自らに突き付け、問い質し、未来を見定めたい。これまでの延長ではない新しい歳へ｡その準備は、この組織の新時代と重なって進む。労働者協同組合として生まれ変わった年にこの組織の門を叩いた自分の使命を探る、最後の40代の一年としたい。

今年もお世話になりました。今年出逢えて、ありがとうございました。